

伊藤 ゆきひろの ちょこっとタイム



後援会便り <No.69号> 2016年 11月 1日 発行

ごあいさつ

日中の小春日和とうらはらに タベの鳥の隊列はいかにも晩秋の風情です。

さて、熊本地震から半年あまり、またも大きな地震が鳥取中部を襲い今も450人を超える人々が避難生活を強いられています。改めて災害に対する万全の備えの重要性や、個々または地域全体の連携の在り方等について、思いを馳せられたことでしょう。

ところで、4年後の東京オリンピック・パラリンピックでは、“復興五輪”と銘打ち被災地復興を念頭に置いた競技開催の調整を進めています。

一方、観光庁から先月末、訪日外国人観光客が年間過去最高の2千万人を突破、そして4年後には4千万人を目標とする発表がありました。

被災した 東北、熊本、鳥取には幸い豊富な観光資源があります。被災地の観光復活を復興戦略の一つに加え、少しでも多くの観光客が被災地を訪れるよう、支援策の強化を更に推し進め、被災地経済が活性化することを願っています。

刈谷市も五輪を観光戦略の好機と捉え、積極的な事業展開を推し進めるよう望んで参ります。



刈谷市議会議員

【後援会事務所】

刈谷市一里山町金山100番地
(トヨタ車体労働組合内)

Tel 0566-36-3870

Fax 0566-36-6272

E-mail itou@bwcom.or.jp

HPアドレス http://y110.jimdo.com



歳時記

11月 3日 (木・祝) 文化の日
7日 (月) 立冬
15日 (火) 七五三
17日 (木) ホヱヨルヌボ-解禁日
22日 (火) 小雪
23日 (水・祝) 勤労感謝の日
26日 (土) ペンの日

この26日はペンの日。”1人の子ども、1人の教師、1冊の本、1本のペンでも世界を変えられる”と説いたのは、銃撃を乗り越えノーベル平和賞を冠したマララ・ユスフザイ女史です。喧嘩の後の”ごめんね”の文字にも同じ力が?…f(^_^);

伊藤ゆきひろの ちょこっと情報 !!



刈谷 良いトコ ♪



刈谷のストーンヘンジが、一つところに集合して 何やら 会議をしているような? さて、ここはどこでしょう?



10/1発行の<No.68>の答えは、小垣江町 大道西の神明社でした。良く整備された道路に囲まれた静寂ながら訪れやすい地域の社です。

”小春日和”への招待☆

晩秋から初冬にかけて、移動性高気圧に覆われた春のように暖かで穏やかな日を小春日和と言いますが、それはまた冬の季語でもあります。

兼好法師・徒然草には、“十月(旧暦・新暦では11月)は小春の天気、草も青くなり梅もつぼみ”とあり、春を模したような気候を表しています。

清少納言・枕草子では、“秋は夕暮れ。夕日のさして 山のはいと近くなりたるに、鳥の寝所へ行くとして三つ四つ二つなど 飛び行かさえ あはれなり”と、特筆すべき 秋の趣を詠っています。その空は、小春日和の夕映えの後の、深く澄みきった紺碧の 切なさを感じさせる程透明感を持つ美しさだったのでしょ。

欧米では、インディアンサマー(インディアンは嘘をつくという白人の思い込みから偽りの夏)、老夫婦の夏、女の夏などと言われ、いずれも“夏”と錯覚され、蒸し暑い日本の夏とは違う カラッと過ごし易い気候風土の差を感じます。

アメリカ原住民には、誠に失礼な言い回しではありますが、別の一説には(人生の晩年などの) 落ち着いた幸福な一時期、という意味もあるとのこと。

小春日和の柔らかな秋の日差しに包まれて、ベンチでお気に入りの本など読む…そんな平和で穏やかな時間は、正に至福のひとつと言えましょう。

11月の行事予定

11月 3日 (木) ユタカ議員協議会研修会
5日 (土)・6日(日) 刈谷産業まつり
7日 (月) ~9日(水) 市民クラブ会派行政視察
13日 (日) 刈谷市防災訓練
16日 (水) 12月議会6者会議
19日 (土) 元刈谷住民会議
30日 (水) 12月議会本会議



“まじめに
コツコツ、即行動”
頑張ります!!

10月のフットワーク

企画総務委員会 行政視察報告

日程	視察先	視察テーマ
10月12日	厚木市	公共施設最適化の推進について
10月13日	佐倉市	地域防災力向上の取組みについて
10月14日	我孫子市	広報戦略による魅力発信について

【視察委員】 伊藤 幸弘(委員長) 外山 紘一(副委員長)
 蜂須賀 信明(委員) 加藤 峯昭(委員) 山崎 高晴(委員)
 山内 智明(委員) 松永 寿(委員) 当局2名



厚木市『公共施設最適化の推進について』

厚木市は、全公共施設の維持管理に40年間で422億円(年間約10.5億円)の財源不足を試算した。市は、将来の人口構成を見据え「厚木市公共施設最適化基本計画」を策定し、次世代に引き継ぐ効率・効果的な運営方法や適正配置の改革を進めている。



【刈谷市が参考にすべき課題】

- ・ 少子高齢化を見据え、市民ニーズに沿った公共施設の在り方について早期検討が必要。
- ・ 公共施設維持管理コストの財源不足および解消のための具体的施策の明確化

【所感】

少子高齢化を背景に財源も含め統廃合・集約・複合化・転用など、積極的な再考を進める必要がある。特に、子育て支援の民間施設活用は合理性があり参考すべき事例と感じた。

佐倉市『地域防災力向上の取組みについて』

佐倉市は、高齢化の進展により高齢者の避難支援対応が重要な課題と捉え、「地域防災力向上計画」を策定し、地域自主防災への活動支援の強化を行なっている。



【刈谷市が参考にすべき課題】

- ・ 高齢化の対応として、福祉避難所の増強が急務。
- ・ 要配慮者への実践的避難訓練の実施を促す行政の助言・指導。

【所感】

避難生活しなくてもよい自助の備えが最も重要だが、自主防災の共助の活動は不可欠。自主防災は自主的・自立活動が基本だが、自主防災の自立活動には行政の助言・指導の支援がより必要と感じた。

我孫子市『広報戦略による魅力発信について』

我孫子市は、減少する人口の歯止め策として、民間の元アナウンサーを職員に起用し、インターネットやメディアを活用して、戦略的なシティセールスを推し進めている。

【刈谷市が参考にすべき課題】

- ・ 定住・移住の促進、交流人口の増加、企業誘致を意識したシティセールス基本方針の策定。
- ・ シティプロモーション人材登用による広報技術力向上の促進

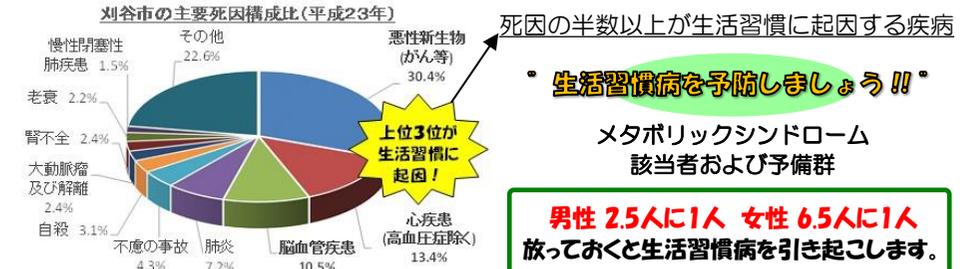
【所感】

シティセールスは、市民にとっても我がまちへの誇りや地域愛が育まれ非常に有効。メディア活用した刈谷の魅力発信は今後積極的に行なうべき課題と感じた。



「第2次 健康日本21 かりや計画」(H26年度～H35年度)の一部を紹介!!

刈谷市は「健康で元気なまち刈谷」をスローガンに、第2次「健康日本21 かりや計画」を策定し、健康なからだ・明るいこころづくりのための啓発活動に努めています。



★メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)とは、内臓脂肪型肥満(腹囲が男性85cm、女性90cm以上)に加え、高血糖、高血圧、脂質異常が2つ以上ある状態を言います。



健康づくりを実践しましょう

☆ 朝食を毎日食べましょう!!
~1日3回バランスのとれた食事~

”朝食のメリット”

- ・ あたまにイイ!
脳にエネルギーを補給し、集中力UP
- ・ からだにイイ!
食べ過ぎが予防でき肥満予防につながる。

☆ 今より1日10分多く
からだを動かしましょう!!

ふだんから元気にからだを動かすことで、糖尿病・心筋梗塞・脳卒中・がん・うつ・認知症等のリスクを下げるすることができます。

刈谷市の主な取組み	目標項目	現状	目標値(H35年度)
■ がんや循環器疾患、糖尿病等を正しく理解し、予防するための情報提供、健康教育を推進。	胃・肺・大腸がん検診受診率	平均約20.2%(H24年度)	40%以上
	子宮・乳がん検診受診率	平均約29.6%(H24年度)	50%以上
■ 特定健康診査等の受診率向上のための啓発を行なう。	メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合	男性 39.1%(H22年度) 女性 14.8%(H22年度)	男性 30%以下 女性 11%以下
	特定健康診査受診率	41%(H23年度)	60%
■ 健康診査後の支援を通じリスク軽減する。	特定保健指導実施率	8.6%(H23年度)	60%